

円居

まどゐる

令和7年12月1日(月)
備前市立備前中学校
校長 藤森 韶麻
0869-64-3365

繋がりを求めて…

■「大人」と繋がる

— みらいスケッチ(1年生) —

1年生のキャリア
学習の一環として、
地域の「働く大人」

の方にお話をしています。
ただく「みらいスケ
ッチ」を開催しまし
た。講師の方は、P
TAの運営メンバーさんにお願いをしてコ
レディネートしていただきました。その結
果、様々な職種の個性豊かな講師の方が10
人も集まつてくださいました。今は何でも
ネットで「検索」できるような気がします。
ある職業についての仕事内容、その職業へ
就く方法…。でも、「この人」の生き様ま
で検索することはできません。中学生の頃
好きだったこと、今の仕事に就くまでのい
ききつ、仕事をする上でのやりがい、大変
さ、お金の稼ぎ方等々、まさに大人の話を
子どもたちにまつすぐぶつけていただきま
した。特に子どもたちにとって、わからな
いこと、将来のこと、というのは楽しみで
もあるでしょうが、大きな不安でもあります。それがこうして、今まで実際に経験し
てきたこと、今、感じていること、未来に



描いていることを、「自分の言葉で熱い思
いを持って話してくださることは、子ども
たちにとって大きい励みとなつたと思いま
す。本当にありがとうございました。

— 合同環境整備 —

11月8日(土)、保護者・地域の方、生徒、
教職員合同で、昨年と同じくグランド東側

の溝掘りを中心に、グランドの草抜き、武
道場の掃除等に取り組みました。昨年まで
は、部活動の一環として保護者の方にもご
協力をいただいているという形でしたが、
今回は学校がボランティアを募り、PTA
の運営メンバーさんにご協力を依頼すると
いう形で実施しました。PTAの企画会議
では、どうせ集まるなら交流の時間をとろ
う、とカレーを用意していただくこととな
りました。環境整備は重労働でしたが、皆
間とになりました。その後のワイヤやりなが
らのカレーはとてもおいしかったです。進化
を感じた合同環境整備でした。来年はさらに
多くの参加があることを期待しています!



— 異校種と繋がる —

恒例となつて いる伊部認定こども園との
合同避難訓練を行いました。我々教職員に
とっても、いざというときの動きを確認す
るためにものですが、生徒にとつても、自

分の命を守ると同時に、状況によつては周
りの人の助けになれるよう、にと いうための訓
練です。頼りにされる備前中学生であること
を願います。



■ぜひ中学校へ!
様々な活動の中で、備前中の子どもたち
の実際の姿をご覧になつてください。大人
から声をかけてください。我々にも建設的
なご意見をいただければありがたいです。
★普段の日でも大歓迎。事務室で「来校者」
の名札を受け取つてください。

— 避難訓練 —

私がかつて赴任していたペルーリマ日本人学校でも、避難訓練はあつた。日本と
じく、ペルーも環太平洋地震帯に位置する地震・津波多発国である。火災に加え、地震
を想定した避難訓練もあつた。(現地校で行われていたかどうかは定かではない)一方で、
日本にはない訓練があつた。それは「非常事態訓練」と呼ばれていた。何を想定してい
たかというと「テロリスト」である。当時、「在ペルー大使公邸占拠事件」から5年ほど
しか経つておらず、安全面で日本の状況とはかなり違つていた。訓練は「アラルマ(=サ
イレン)」が鳴り響くことでスタートする。テロリストが校内に侵入することを知らせる
合図だ。アラルマは2種類。音によって逃げる方向が決まっている。高い塀に囲まれて
いる学校から外に逃げられるのは、正門ともう一つ、校庭の隅にある普段は閉ざされた
小さな門だ。アラルマが鳴ると子どもたちはどちらへ逃げればいいか瞬時に判断し、猛
ダッシュをする。日本の学校で使われた「おはし!!押さない・走らない・しゃべらない
(他に「おはしもて」等)」はここには存在しない。とにかく「走れ、走れ、走れ!」だ。
小学1年生から中学3年生まで、一人でも多く逃げる、これしかない。実はアラルマに
はもう一パターンある。2種類のアラルマが同時に鳴るパターンだ。これは「学校の外
にはもう逃げられない」という合図。こうなると目指す場所は「シェルター」だ。校内
にいくつかある、ドアが鉄板で補強されている小さな部屋だ。中には水と非常食、外に
つながる無線が備えられている。その部屋に向かつて全力ダッシュ、扉を厳重に閉め、
ただ息を潜めて隠れ続ける。
ある日の昼休み、事件が起きた。職員が点検中に誤つてアラルマを鳴らしてしまつた
のだ。校庭や教室で思い思いに過ごしていた子どもたちは同じ方向を目指して一斉にダ
ッシュした。誤つて鳴らしてしまつたことはもちろん×だが、職員の反応が子どもたち
よりはるかに悪かつたことが反省に挙げられた。「何かの間違いに違ひない…」大人た
ちの方にそんな甘さがあつた。

今、突然非常ベルや緊急地震速報の警報音が鳴り響いたら、備前中はどうするだろう。
いや、それ以上の想定外のことが起きたら…。どんなことがおきても、各々が自分で考
え判断し、子どもたちのために協力して最善解に向かえる備前中でありたい。